

現在 そして これから ～安全な水を次世代へ～

■水道施設整備事業(平成20年～)

平成19(2007)年当時、呉市では、宮原浄水場と平原浄水場の2か所の浄水場が稼動していました。

しかし、大正7(1918)年の創設時から稼動している平原浄水場の老朽化が著しく、この機能を維持するためには、膨大な修繕費用や更新費用が必要となることから、平原浄水場の在り方が問題となっていました。

このため、基幹浄水場である宮原浄水場内に平原浄水場分の配水能力を統合して浄水施設を建設することとし、さらに、平成18年に発生した水道送水施設事故を教訓として、宮原浄水場全体を耐震化施設として建設することとしました。

この新たに完成した浄・配水施設は、平成20年度に着工、平成24年度末に完成し、平成25年4月から給水を開始しました。

その一方で、大正7年の市民給水開始から長きにわたり水道事業を支え続けてきた平原浄水場は、静かにその役割を終えました。

その跡地には、平成29年10月、平原低区配水池が完成し、新たな歴史を刻み始めています。

また、昭和47(1972)年に建設した宮原浄水場管理棟は、耐震性の問題、今後の機能充実には手狭であることから、庁舎機能を備えた施設として、平成30年1月に新たに管理棟を整備しました。

この管理棟は、災害対応等の拠点施設として位置付け、危機管理体制の強化を図っています。

■将来も持続可能な呉市水道事業を目指して

呉市の水道事業は、呉鎮守府水道をルーツとし、大正7年4月に市民給水を開始し、平成30年4月に100周年を迎えました。

戦前の呉市には、海軍や海軍工廠が導入した最先端の技術により技術者が育成されるなど、高度な技術力が蓄積されていました。

戦後は、これらの高度な技術力を礎として、「平和産業港湾都市」として発展してきました。

水道事業においても、呉鎮守府水道の時代から脈々と受け継いできた高度な技術力によって、1世紀にわたり水道事業を維持することができました。

これからも、「次世代につなぐ 信頼ある上下水道」を目指し、長年蓄積した技術力や経営ノウハウを次世代に引き継ぐとともに、今後予想される、水道事業を取り巻く大きな環境変化を的確に捉え、安全で安心な水道水の安定的な供給に努めていきます。

